

海こひし潮の遠鳴りかぞへつゝ、

をとめ
少女となりし父母の家

歌 意

海が恋しい、父母が恋しい。私の育った堺のまちでは、夜になると海から潮の遠鳴りが聞こえてきます。茅渟ちぬめの海の遠鳴りを聞きながら育ったふるさとの家がしきりに思われます。

掲出歌集 『恋衣』 明治38（1905）年1月
初出 「明星」 明治37年8月号、題は「みづあふひ」

（晶子26歳）



- ・所在地 晶子生家跡（堺区甲斐町西1丁1）
阪堺線の西側で宿院駅と大小路駅の間西側にある
- ・建 立 昭和36年5月28日 堺市教育委員会
- ・デザイン 白石正義（一陽会 堺美術協会会員 彫刻家）
- ・書 晶子自筆

第二次世界大戦の戦火によって市街の大部分が壊滅した堺市がやっと文化に目をむけ、晶子没後20年の「晶子二十年祭」を行うにあたり、晶子歌碑建立の話がもちあがった。建立は、教育委員会と大野翠峰氏（郷土史家・俳人）、松本壮吉氏（郷土史家・民俗学研究者）、江村峯代氏（歌人）により進められた。

碑文は「春風抄」（巻物）の中にしるされている自筆を刻字した。市内で最初に建立された歌碑である。歌碑の除幕は、駿河屋四代目鳳久夫氏（壽三郎次男）の長女理子さんがされた。「晶子二十年祭」を記念して堺時代の歌の出版物も刊行され、南宗寺で記念講演会なども開催された。

中央にあるアマリスと百合は、晶子が好きだ花といわれている。碑全体の形は晶子の旧姓鳳より、鳳凰が大きく羽を広げている姿を象徴している。

※『恋衣』では三句目が「かぞへては」となっている。

※平成19（2007）年4月に生家跡がリニューアルされた。説明板を設置し、歌碑の前は、歌にちなみ海と波をイメージした石組みと青色のタイルで整備されている。